深沢中学校
同窓会報
深友会だより
第16号

鎌倉市立
深沢中学校
深友会事務局
〒247-0063
鎌倉市梶原1－14－1
☎0467-44-1222

同窓の縁

深友会（深沢中学校同窓会）会長（第八回生）　嶋村勝美

産業構造が変わるたびに時代は大きく変化する。我が国の産業は、農林・漁業の時代から工業時代、更にサービス産業時代を経て今やIT産業時代になっている。しかも、その変化の速度が急激になっているのでそれに対応することに追われて心の余裕を失い、その結果、人と人との関わりが希薄になってきている。

世界がグローバル化した今日では、国内だけで物事が解決できないことは明白である。政治も経済も産業も我々の生活の全てが地球規模で考えなければならない時代になっている。特に資源の少ない我が国は、資源を輸入してそれを付加価値の高い製品にし販売することで経済大国の仲間入りをしている。よって、産業構造の変化には敏感に対応していかざるを得ない状況になっていることは否めない。

しかしながら、急激な生活の変化への対応や高度なハイテク機器の操作に目が向けられ、精神的なゆとりを失いつつあることは問題であろう。しかも、実生活から逃避しインターネットでのバーチャルなゲームに毒されている子どもたちが急増しているし、インターネットを利用した犯罪も多発している。

経済力を維持していかなければならないし、そのための技術革新は必要であることを肯定しつつも、我々生身の人間としてはそろそろ人間性の回復が待たれる。もうこの辺りで原点回帰してもいいのではないだろうか。インターネットやメールもいいが、手紙や対面での会話を大事にしたい。バーチャルなゲームよりも身近な生き物や自然との触れ合いを大切にしたい。経済的な豊かさも大事だが、それ以上に心の豊かさを求めていきたい。銭金はバブルとなって消えることはあるけれども、人とのつながりや支え合いは決してなくならない。

我々は二〇一一年三月十一日、未曾有の大災害に見舞われ災害の恐ろしさを目の当たりにしておののき不安と悲しみに暮れた。今もその傷跡は癒されてはいないが、お互いに助け合うことの大切さを悟った。物や銭金に価値観を抱いていたけれど、人と人との絆や縁の大切さに気付かされ、その年の漢字に「絆」が選ばれた。

人は、家族・地域・学校・職場、様々なところでいろいろな人と関わっている。そうした関わりを通して今の自分がある。昔の人は「袖すり合うも多少の縁」と言い、人と人との縁や結びつきを大切にしてきた。これは日本人の精神文化の一つであるからこうした気持ちを大切にしていきたい。

「深友会」も同窓という縁の組織体である。公立中学校では珍しいそうですが一九六五年十二月に設立され、以降、先輩諸氏が継続してきた。これからも「深中」で学びすごした同窓生という縁を大切にしていきたい。そして、この「深友会だより」も同窓の沢山の方々のご支援ご協力によって発行されている。誠にありがとうございます。

今後も母校の発展と在校生の育成の一助となるように、また同窓生の情報紙としてお役に立つよう努力してまいります。ご意見や情報などこれからもご連絡いただければ幸甚です。

同期会だより

＊第八回生

六月二十二日深中八期生同窓会をグランドホテル湘南で行いました。前日迄、台風四号と梅雨前線が重なりどうなるかと心配しましたが温帯低気圧に変り暑い日射しの、良い天気に恵まれ、午前中に松本先生のお墓参りをいたしました。午後二時開宴のお知らせをしてあったのですが、宇田川先生のお姿が見えず連絡もなくそのまま宴も終わり。二次会へ行き…二次会が終わって、幹事の二人が連絡をしてくださり、息子さんにつながり先生が亡くなったと判明しました。四月三十日付の返信で「皆にお会い出来るのを楽しみにしています」と書かれていたのが、最後になりました。平成二十五年は、二月に松本先生・五月に宇田川先生と立て続けに担任の先生が逝かれ、何という年なのでしょう！絶句！！ご冥福を祈ると共に合掌！！！！

同窓生の皆も古稀を過ぎ若いとは言えない年なので、次回お元気なお顔を一人でも多く見られるよう祈って散会しました。

深沢中学校の思い出

深沢中学校教頭　松本　隆

深沢中学校に赴任して4年目になります。学校要覧を作成するに当たり、学校の沿革を見てみると昭和41年の3月に今の場所に校舎とスタンド付のグランドが完成し、深小から引っ越してきたことが書かれています。私は翌年、誕生したばかりの腰越中サッカー部の一員として、試合のためグランドにお邪魔しました。新しい校舎やグランドなど素晴らしい施設がうらやましく思ったことと、私が他校との試合で初めてゴールをしたことを思い出します。その後、中学校のサッカー部の顧問となり、たびたびこのグランドで試合をさせていただきましたが、ホームとして試合ができなかったことが残念です。

夏の部活動

今年は梅雨明けも早く30度を超える猛暑の中、夏の大会や文化祭に向けての活動が運動部も、文化部も熱く展開されました。今年は卓球部の小澤さん（3年男子）が個人戦で湘南大会優勝、県大会5位・関東大会に出場しました。また男子団体は湘南大会に出場、個人では小澤君の他4名、女子は4名が出場しました。テニス部は男子が市内大会団体2位、女子が市内団体3位で共に湘南大会に出場、個人戦では男子1ペア、女子2ペアが湘南大会に出場しました。バスケットボール部女子は市内大会準優勝で、湘南大会に出場しました。剣道部は団体戦で男女ともに湘南大会に出場し、個人戦では男子1名女子2名が湘南大会に出場しました。サッカー部は市内大会準優勝で湘南大会に出場しました。期待された野球部は残念にも1回戦で敗れてしまいました。バレーボール部は湘南大会に出場しました。陸上部は市内大会においてたくさんの選手が好成績を収めました。

また、水泳部はありませんが本校を代表して新井さん（3年男子）が200m・400mバタフライで関東大会に出場しました。

文化部では、吹奏楽部が県南吹奏楽コンクール銀賞を受賞、合唱部はTBSこども音楽コンクール横浜地区大会で優良賞をNHK全国音楽コンクールで奨励賞を受賞、囲碁将棋部は市内個人戦で畠野（1年男子）が優勝しました。

その他の部活も全力を尽くし各大会で健闘しました。また文化祭の発表のために夏休みに地道に取り組んでいる部もありました。

これからも深沢中学校の活躍と発展を暖かく見守っていただくようお願いします。

平成24年度卒業生進路状況

私立高校

鵠沼
平塚学園
湘南工科大学附属
山手学院
三浦学苑
藤沢翔陵
湘南学院
旭丘
アレセイア湘南
柏木学園
日大藤沢
横浜学園
横須賀学院
藤嶺学園藤沢
秀英
桐蔭学園
鎌倉女子大学高等部
鎌倉学園
横浜隼人
北鎌倉女子学園
横浜清風
横浜商科大
聖和
桐光学園
和光
日々輝学園
鹿島学園
私立　51名

公立高等学校

全日制普通科	横浜翠嵐
	保土ヶ谷
	金井
	横浜立野
	逗葉
	鎌倉
	七里ガ浜
	大船
	深沢
	湘南
	藤沢西
	湘南台
	茅ヶ崎
	茅ヶ崎北陵
	鶴嶺
	茅ヶ崎西浜
	平塚江南
単位制普通科	神奈川総合
	横浜桜陽
	横浜栄
	藤沢清流
	平塚農業・園芸
専門学科	平塚工科
	藤沢工科
	平塚商業・総合ビジ
	（川）川崎・福祉
総合学科	藤沢総合
定時制	湘南
通信制	横浜修悠館
国立	学芸大附属
	公立　83名

深友会からのお知らせとお願い

猛暑、渇水、台風、竜巻、洪水。大変な夏でした。被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

「深友会だより」第十六号お届けします。この会報は住所が確認できた方々にお送りしています。お手元に届かない卒業生で送付を希望される方は事務局までお知らせ下さい。また同期生の名簿を新たに作成した時は事務局にお送り下さい。全員にこの会報を送らせて頂きます。

なお同封の振込用紙は会費ではなく、寄付を強要するものでもありません。卒業生の連帯をはかる同窓会の活動にご賛同頂ける方に賛助金としてご協力をお願いするものです。ご理解下さい。

住所変更の際はご報下さい。ご寄稿、ご通信、賛助金お振込の節は卒業年度と旧姓を明記下さるようお願い申し上げます。

今回、卒業生の飛沢利夫さんから写真をご寄稿頂きましたが、紙面の都合で割愛させて頂きました。心よりお詫び申し上げます。

今年も「文学歴史散歩」を開催します。目的地は材木座・披露山公園。参加希望の方は十月二十三日（土）の午前十時に鎌倉駅東口にご集合下さい。小雨決行、雨天中止となります。

＊連絡先は〇九〇（六九三三）七三二八
嶋村勝美会長まで。

オリンピック開催に思う

鎌倉市立深沢中学校　校長　秋山定明

九月五日の早朝、ブエノスアイレスより、二〇二〇年オリンピック・パラリンピックの東京開催決定のニュースが飛び込んできました。

発表前夜に行われたIOC総会での日本招致委員会の心に訴える素晴らしいプレゼンテーションをきき、安心感を抱きながら眠りについたためか、開催地『TOKYO』の響きを静かに受け止め、拳を握りガッツポーズをとっていました。そして、四十九年前の東京オリンピックの思い出がよみがえってきたのです。

我が郷里が生んだ金メダリスト、東洋の魔女と言われた女子バレーボールチームの主将・河西昌枝さんが大活躍したバレーボールの試合です。当時ルールもよくわからない小学四年生が、宿敵ロシアとの決勝戦を家族皆でテレビ画面に向かい「よし」「そこだ」「いけー」と声を張り上げ、拍手を送りながら観戦し、ロシア選手のオーバーネットの反則で、金メダルを獲得した瞬間「やったー!」と飛び跳ねながら家族と喜んだこと。そして、家族とともに近くの八幡神社に行き、境内一杯に集まっていた大勢の人達と一緒に河西さんの実家まで夜道を提灯行列し、「万歳・万歳!」と歓喜をあげたのを思い出しました。また、金メダルを胸に下げ、数名の選手とともに郷里に凱旋した折に、鼓笛隊の指揮者として実家までパレードし、金メダルに触れさせていただいた感触は今でも鮮明に残っています。

二〇二〇年東京オリンピック・パラリンピックは、現在中学生や高校生あるいは小学生の子供たちが青年期を迎えた時に、競技者として、運営スタッフとして、観客としてなど様々なかたちで、世界中の人々が集まる最大のイベントに立ち会うことができます。世界の人々と出会い、世界に目を向け、世界と渡り合う、そんな機会になると思います。そしてこの祭典が、誰もがスポーツに親しみ、子供たちに夢を与える社会を創ってくれることを期待したいと思います。

中学校時代にタイムスリップ

昭和四十九年卒業（第二十六回生）
鎌倉市立深沢小学校　教頭　額賀敬美（旧姓 中間）

私が、深沢中学校に入学したのは、昭和四十六年の四月のことでした。その頃はまだ、梶原山や大平山、丸山の開発が続いており、正門の前には空き地が広がっていたように記憶しています。今は大きく育って深中を緑豊かに包んでいる木立も、まだ若木でした。

世の中の動きの中で、一番覚えているのは、円が変動相場制に移行したことです。それまでは、一ドル三六〇円に決まっていたのに、三〇八円になったとニュースで聞いてびっくりしたのを覚えています。それが現在は、一〇〇円というのですから円の価値があがったものです。ザ・タイガースが解散したことや横綱大鵬が引退したことは少し寂しい思い出として、「あのすばらしい愛をもう一度」のヒットや「ゲゲゲの鬼太郎」「天才バカボン」の放送開始は楽しい思い出として心に残っています。

そんな年に中学生になりました。少しだけブカブカする制服を着て、黒い学生かばんを持って、坂を登って初めて正門をくぐったとき、校舎の大きさやグランドの広さに驚きました。と、同時に新しく始まる中学校生活への期待に大きく胸を膨らませていました。深沢地区の人口がどんどん増えていく時代でしたので、クラスに入ってみると、知らない顔の同級生がたくさんいました。それでも、みんなすぐに仲良くなり、私の中学時代はあっという間に過ぎていきました。その間に、深中には新しくプールができたり、体育館ができたりしました。

プールでは、体育の学習だけでなく、クラス対抗の水泳大会が行われ、クラスメートの力泳に声がかれるほど応援しました。

中学三年になる年にできた体育館では、同級生がチューリップのヒット曲「心の旅」を演奏するのを先生方が許してくださいました。学校でフォークソングの演奏を聴けることに、胸が高鳴りました。そして、高校受験が終わってから卒業式までの間に、学年全体でフォークダンスをしたこともいい思い出です。

中学を卒業する直前に、クラスメートと担任してくださった丹野先生と二緒にグランドから夕陽に浮かぶ富士山を見たことがあります。その時、私は限りなく広がる未来を見ていたような気がします。

それから、四十年以上過ぎて、来年の五月には二回目の同期会が計画されているそうです。同級生に会ったら、きっとあっという間にタイムスリップして、中学時代に戻ってしまうことでしょう。その日が今からとても楽しみです。

「お笑い芸人修行中」

平成十三年卒　清水孝昭

八月三日から四日まで二日間行われました毎年恒例の「ふかさわ夏まつり」。この祭の役員の方とは長いお付き合いをさせて頂いており、現在お笑い芸人、タレント修行中の私はしばしばPRの場として、この祭のステージを利用させて頂いている。

今年もPRも兼ねて抽選会の司会の役を当日飛び入りで頂き、その時この深友会だよりのお話を伺った。

今から十五年前に入学し、十二年前の平成十三年に卒業した深沢中学校での中学校生活。

当時をふり返るとその時からテレビのお笑い番組が大好きで、その時流行っていたタレントのものまねばかりしていた。

でも、決して「面白いクラスメイト」といった存在になることはなく、むしろ「変な奴」と思われ、どちらかというと「いじめられっ子」の分類であったと思う。（笑）

しかし、当時はそれで辛いと感じることも多かったが、今になると笑いのエピソードの一つにもなるし、いい経験になったと思う。

その後、同じ高校に上がった中学の同級生の誘いで、深沢小で開催されている「ふれあい広場」というイベントで「お笑い」のコーナーを立ち上げ、その後四年に渡り深沢小に通う子供達の前でコントを披露した。

今になって考えると、子供の前で披露するには過激なものも多かったと思うが、そこで子供達の笑顔に触れ、人を笑わせることの快感に目覚めた。

その後、その同級生を通じ、まつりの会の役員の方と知り合うことになった。

そして、その同級生の「お前の才能を信じたい」という言葉を信じ、プロを目指すことを決意し、インターネット等を通じ、修行の場を探し、無い頭を振りしぼりネタを考えてひたすら走り続け、現在では、萩本欽一、関根勤、小堺一機、キャイーン等が所属している「浅井企画」というプロダクションに所属することができた。これから本格的な修行が始まると思っている。

現在、もしイジメで悩んでいる子や、そういった子を持つ親に何か言うことができるのなら、「今、あなた（もしくはあなたのお子さん）は貴重な経験をしているのだ」と言ってみたい。

逃げずに乗り越えれば、大きな自信にもなるし、笑い話にしてしまうこともできる。

「あ、あたしイジめられてる、オイシイぞ」と思ってしまえば気持ちも楽になるんじゃないかと。

そして、今になって私の才能を信じると言ってくれた友人に声を大にして言いたい。

「とんだカン違いだったぞ!」と（笑）

（グループ名・「ヘンな指輪」写真左が筆者）

深沢歴史トピックス

第八回生　石井和行

一・なぜ深沢というのか?

ふかさわ（は）、ふかざわとも呼ぶ。地名の由来については、諸説あるけれど地形からみて、「太古において沼沢であった」という説が多い。

「深」の付く地名は全国的にも数多くあり、その多くは「湿地」、「深く入り込んだ入江」あるいは、「深い谷」などの意味から、いつの日か地名として呼ばれるようになった。

地名に関する文献では、次のように説明しています。

広辞苑　新村出編　岩波書店

水の深い沢

古代地名語源辞典　楠原祐介　東京堂

「深く入り込んだ谷川」と解するよりも、むしろフカはフケの転で「湿地」のこと、サハも「谷川」の意味ではなく「湿地」かも知れない。

二・昔、深沢に悪い竜がいた?

鎌倉と海月（くらげ、現在の横浜市にあった久良岐のこと、今の磯子区から南区の辺り）との国境に深沢という大きな湖があった。青黒くよどんだ大きな湖は、まわりの山々の影を映し、いつも濃い霧に覆われていました。昼も薄暗いこの湖の辺りに人が近づくといやな風が吹いてきて、静かだった湖面は急に白波が立ち始めるのでした。

このように薄気味悪い湖でしたから、人々は、この湖の近くに住もうとはしませんでした。

この深沢の湖に、五つの頭を持った、大変悪い竜が住んでいました。

いろいろ悪いことを重ねて来ましたが、武烈天皇（第二十五代天皇・西暦四九八～五〇七）のころ、とうとう津村の港に出て来て、人の子を食べてしまいました。津村の長者の家には十六人の子がおりましたが、みんな食べられてしまいました。その後も、たびたび村里に出てきて子供を食べるので。人々は泣く泣く住み慣れた土地を離れて他の土地へ越して行きました。

越していった場所を子死越といい、今の腰越の名前の由来になったと言われています。この伝説の詳しいお話しは、このシリーズのあとに詳しく説明します。

三・長谷の大仏が深沢にあったというのは本当か?

吾妻鏡によると、七七五年前、第三代執権北条泰時の嘉禎四年（一二三八）三月二十八日、「人家や庭木がことごとく折れるような西風の強い日に、深沢里の大仏の造営を始めた」という記録があります。

ちなみにこれから五年半後の嘉元元年（一二四三）六月十六日「深沢村に一宇の精舎を建立し、八丈余の阿弥陀の像を安じ、今日供養す」とある。

このことからすると、現在の長谷の一部も深沢であったことが分かる。（続く）